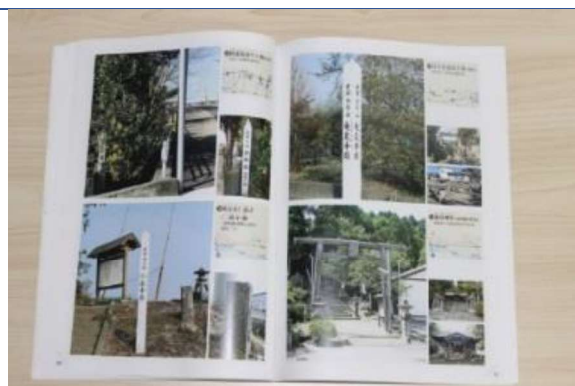
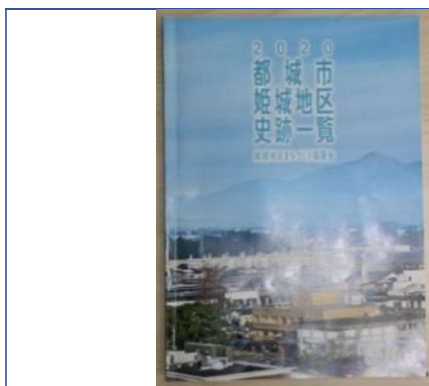


姫城地区史跡等写真集作成事業



取組地区：姫城地区
取組年度：令和元年度
事業主体：姫城地区まちづくり協議会
事業費：1,468,800 円（基金活用額：1,468,800 円）
問い合わせ：46-2603

課題・取組みの概要

- 地区内には、都城市の誕生にかかわる数多くの史跡等が残存。しかしながら、その存在を知らない地区住民、市民が多数存在している。
- 私有地内の史跡（石柱など）のうち、知らされずに撤去されているものがあつた。
- 地区内の史跡等を写真集にまとめ、学校教材として活用してもらうほか、地区内の各家庭に配付し地区住民の郷土愛を醸成することを目的として作成した。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 約 40 か所の史跡、案内板、史跡標柱等を A4 版、オールカラーの写真集としてまとめた。
- 各史跡等の位置図及び由来等説明書きを加え、史跡への知見を広められるよう工夫した。
- 地区内の史跡等を記録として残すことができた。
- 写真集を基に、史跡巡りをしたとの声も寄せられた。

今後の課題・アドバイス等

- 史跡の由来等に関する説明書きを巻末に記したが、各史跡写真と同じページに、位置図と説明書きが入った方が見やすくなる。
- 市民から写真集がほしいとの問い合わせがあつた。

都城島津灯ろう祭り賑わい創出事業



取組地区：姫城地区

取組年度：令和元年度

事業主体：姫城地区まちづくり協議会

事業費：3,533,592 円（基金活用額：3,522,006 円）

問い合わせ：46-2603

課題・取組みの概要

- 「新しい観光資源を創設し、地域を盛り上げることが出来ないかという」意見があったことから、夏の風物詩「六月灯」と「都城島津の歴史」という姫城地区の地域資源を磨き上げ、「灯ろうまつり」を計画した。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 都城島津家に縁のある旭丘神社の六月灯（7月28日）に合わせて開催することで、効率よく集客を図った。
- 「子ども灯ろうコンテスト」を実施。点灯式で優秀作品の表彰を行うとともに、応募作品全て（100基）も展示した。
- 都城島津家の歴史を時系列で理解できるよう、29基の灯ろうを会場である旭丘神社の神社鳥居から社殿にかけ配置した。

今後の課題・アドバイス等

- 毎年同じ灯ろうを展示しても来客者を増やすことができないため、新作を交えながら展示する必要がある。
- 初回は告知が足りなかったため、積極的な広報が必要である。

姫城地区地域資源活用事業



取組地区：姫城地区

取組年度：令和2年度

事業主体：姫城地区まちづくり協議会

事業費：1,624,200円（基金活用額：1,575,000円）

問い合わせ：46-2603

課題・取組みの概要

- 令和元年度から始まった「都城島津灯ろうまつり」を更に洗練されたものにするためには、観覧者が飽きないよう、毎年、内容の異なる灯ろうの展示が必要であるため、差替え用の灯ろうも準備することになった。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 新たに製作した灯ろうと、制作済みの灯ろうを交互に展示する。
- PR用看板も作製したことで、各種イベント等で灯ろうまつり開催の告知が行えるようになった。
- コロナ禍で灯ろうまつりが中止になったため、図書館や国文祭・芸文祭のイベント会場での展示を行った。

今後の課題・アドバイス等

- 制作した灯ろうの保管場所（倉庫）を確保する必要があった。
※姫城地区は、中央公民館の倉庫を生涯学習課より借用している。
- 今回、予備の灯ろうを準備できたが、新しい灯ろうを数年間隔で制作する必要がある。
- 第1回の灯ろうまつりは知名度が低く広報期間も短かったことから、祭りの開催を知らなかった観覧客がほとんどであった。観覧者を増やすためには、事前の広報活動に力を入れる必要がある。

ふるさと再発見事業



取組地区：小松原地区

取組年度：令和元年度

事業主体：小松原地区まちづくり協議会

事業費：471,583 円（基金活用額：380,000 円）

問合わせ：24-1900

課題・取組みの概要

- 地域内の歴史資源は豊富にあるが、住民に周知されていないのが実情である。そこで、自治公民館で史跡や歴史的建造物の調査を行い、史跡マップを作成し、それをもとに案内板を地区公民館に設置する。また、ウォーキング大会を開催し、地域に対する誇りと愛着を高めていく。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 身近にあるがゆえに、逆にその重要性が理解されにくいのが、地域の歴史を残す史跡である。今回は、専門家に委託するのではなく、自治公民館に調査を依頼した。地域を見直すきっかけともなり、住民の意識を高めることができた。

今後の課題・アドバイス等

- 住民への周知を図るため、ウォーキング大会を毎年行うこととしていたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、2年連続で中止となった。
- 住民への周知が課題であり、繰り返し調査を行い、新たな発見を期待したい。

祝吉地区歴史探訪マップ活用事業



取組地区：祝吉地区

取組年度：平成 29 年度

事業主体：祝吉地区まちづくり協議会

事業費：204,120 円（基金活用額：204,120 円）

問合わせ：23-2890（祝吉地区公民館）

課題・取組みの概要

- 課題：地区内に多くの史跡等が点在しているが、住民に十分理解されていなかった。
- 概要：平成 26 年に作成した祝吉地区歴史探訪マップに記載された史跡等に案内看板を設置しマップ活用を促進した。
- 毎年 2 月にマップを活用したウォーキング大会を実施する。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 成果：マップに掲載された史跡等の由来等を記述した案内板を設置したことにより見学者の理解度を高めることができる。
- 工夫した点：事業費圧縮のため、ウォーキング大会開催時は、参加費を徴収した。
- ※道路使用許可（警察署）、河川使用許可（河川国道事務所）など申請が必要である。

今後の課題・アドバイス等

- 今後の事業継続の方向性：毎年実施を検討する。
- 今後、解消すべき点
 - ・荒天時の開催についての判断基準の検討が必要である。
 - ・ウォーキング大会開催時は、多くの参加者が移動するため安全面への配慮が必要である。

祝吉地区歴史探訪マップ活用事業



取組地区：祝吉地区
取組年度：平成 30 年度
事業主体：祝吉地区まちづくり協議会
事業費：115,560 円（基金活用額：115,560 円）
問合わせ：23-2890（祝吉地区公民館）

課題・取組みの概要

- 祝吉地区には多くの遺跡や歴史的史跡が点在しているが、住民周知が十分でなかった。
- 祝吉地区歴史探訪マップ千部を作成し、地区内の小学校へ配布し総合学習等の教材として活用を依頼した。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 地区内に点在する遺跡や史跡について、わかりやすい表現とするよう工夫した。
- 各学校の総合学習の教材として活用することより、理解度を高めた。

今後の課題・アドバイス等

- 更新方針：毎年小学 3 年生に配布。残りは学校で保管を依頼した。
- 総合学習の教材とするため、学校の理解が必要である。

祝吉地区歴史探訪マップ活用事業



取組地区：祝吉地区
取組年度：令和元年度
事業主体：祝吉地区まちづくり協議会
事業費：272,074 円（基金活用額：254,386 円）
問合わせ：23-2890（祝吉地区公民館）

課題・取組みの概要

- 歴史探訪マップに掲載された史跡等の場所の問い合わせがあった。
- 地区公民館駐車場内に歴史探訪マップの大型看板を設置した。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 歴史探訪マップに記載された史跡等の位置関係が分かりやすいように表記した。
- ウォーキング大会開催時のコース説明に利用できる。
- 公民館利用者が、空き時間に看板を見ることにより史跡の存在を啓発することができる。

今後の課題・アドバイス等

- 効果的な啓発をするため史跡めぐり案内ボランティアの育成が必要である。

地域の歴史を伝承する事業



取組地区：横市地区

取組年度：令和元年度

事業主体：横市地区まちづくり協議会

事業費：1,212,000 円（基金活用額：1,212,000 円）

問い合わせ：25-2257

課題・取組みの概要

- 横市に住んでいる人でも、横市の名所の認知度が低かった。
- 他地区に横市地区を紹介する行事がなかった。
- 「横市マップ」の見直しを行い、改訂版を発行する。
- 史跡等の案内板を設置する。
- 「横市ウォーク」を実施するために必要な備品（ワイヤレスアンプ）を整備する。

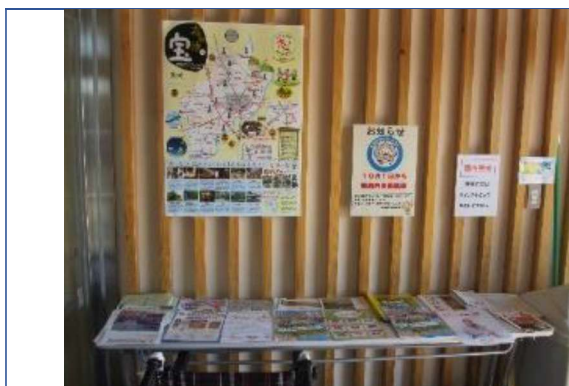
成果・事業の特徴・工夫したこと

- 横市マップ増補改訂版は、公民館加入全世帯・自治会加入世帯、教育福祉施設等に配布し、地域住民や子ども達の郷土愛を醸成している。
- 史跡等案内板は、横市ウォーク等に活用して地域の歴史を伝承している。
- ワイヤレスアンプは高齢者ふれあい事業や横市ウォーク等の野外イベントに活用している。また、地域内の関係団体に貸し出しを行うことで、地域活性化に役立っている。

今後の課題・アドバイス等

- 横市ウォークは継続して実施してきた。
- 横市ウォークを今後も実施するためには、地域の歴史を説明できる「語り部」の育成が必要となっている。

「志和池の宝」ポスター作成事業



取組地区：志和池地区
取組年度：令和2年度
事業主体：志和池地区まちづくり協議会
事業費：181,500円（基金活用額：180,000円）
問い合わせ：36-0519

課題・取組みの概要

- 「志和池の宝」ポスターは、平成16年3月に作成されて以降、現状に添わない施設や写真が見受けられるようになった。
- 「志和池の宝」を次世代に伝承していくため、地区の文化芸術や神社・仏閣、史跡を再調査するため、検討会を設置するとともに、ポスターを製作した。
- 1,000枚作成し、小中学校PTA、保育所、各自治公民館、各民主団体組織等に配布を行った。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- ポスターのQRコードを読み取ることで、スマートフォンでも、都城市のみやこんじょPR課・文化財課ホームページに容易にアクセスし、志和池の文化財を手軽に動画で観ることができるようにした。
- ポスターにQRコードを取り入れたことで、中高生にも関心を持たせることにつながり、好評を得ている。

今後の課題・アドバイス等

- ポスターを一度観て終わりではなく、新しい発見や地域の伝統文化を再認識することにより、新たな取り組みに繋げる工夫が必要である。

郷土誌「庄内」書籍電子化事業

DVD1 枚に 24 冊分を収納



パソコンで PDF を表示したところ



取組地区：庄内地区
取組年度：平成 30 年度
事業主体：庄内地区まちづくり協議会
事業費：364,979 円（基金活用額：357,000 円）
問合わせ：37-3488

課題・取組みの概要

- 郷土誌「庄内」は、平成元年に創刊以来版を重ね、地域の歴史や史跡研究、記憶に残すべき話、写真など貴重な資料が満載されている。
- この貴重な資料を電子化し、保存・検索・閲覧等を可能にする。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 郷土誌「庄内」を始めとする計 24 冊の書籍を PDF 形式で電子化。パソコンで検索・閲覧等が簡単にできるようになった。
- 小中学校の郷土歴史授業のほか観光客ガイドに対し、電子書籍を活用した取り組みを行った。
- 県立・市立図書館及び関係団体に寄贈し、希望者に実費程度で提供した。また、まちづくり協議会の HP にも電子書籍を掲載した。

今後の課題・アドバイス等

- 記憶に残すべき貴重な資料は、PDF 形式の電子書籍にしておくことで、簡単に検索・閲覧等でき、後世に継承することができる。

中郷地区の歴史 DVD 作成事業



取組地区：中郷地区

取組年度：平成 30 年度

事業主体：中郷地区まちづくり協議会

事業費：1,998,000 円（基金活用額：1,900,000 円）

問合わせ：39-0713

課題・取組みの概要

- 地域行事や民族芸能等に関する後継者の減少が著しい。
- 中郷地区の歴史（文化・自然・暮らし等）をまとめた DVD を作成し、次世代への継承を図る。

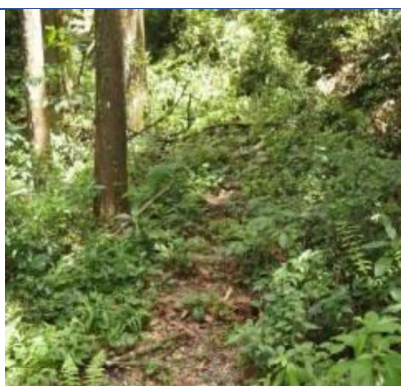
成果・事業の特徴・工夫したこと

- 小中学校及び各種団体に配布し、地区の歴史・文化を学ぶ機会の提供を図る。
- 地域の行事、学校の行事、郷土芸能等に分類後、春夏秋冬、季節ごとにまとめた。
- 行事・芸能等、総合的に記録した媒体であることから、後継者育成にも役立つ。

今後の課題・アドバイス等

- 定期的な試写会を実施することにより、DVD の利活用を促す。
- 近年、地域の歴史や文化について伝承できる人が少なくなっている。

六ヶ村城跡周辺整備事業



整備前



整備後

取組地区：中郷地区

取組年度：平成 30 年度

事業主体：中郷まちづくり協議会

事業費：2,089,600 円（基金活用額：2,033,600 円）

問い合わせ：39-0713

課題・取組みの概要

- 六ヶ村城跡展望台への遊歩道が倒木や路肩崩壊等により通行できない状況である。
- 散策道として再整備し、多くの市民が親しむことのできる場とする。
- 案内板の設置も行う。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 展望台周辺の整備を行ない野鳥観察、森林浴を楽しむ市民が増加した。
- 遊歩道整備後の維持管理を地元壮青年へ依頼した。
- 案内板により集客効果増を期待する。

今後の課題・アドバイス等

- 山林に囲まれているため、風雨に脆弱で定期的な管理が必要である。
- 周りの木々の成長に伴い、展望台からの眺望の悪化が懸念される。
- ウォーキング大会を開催し、地域の活性化に繋げていく。
- 県・市への協議、許可申請を要する（公共広告物表示・設置協議等）。

梅の植栽整備事業



取組地区：中郷地区
取組年度：令和元年度
事業主体：中郷地区まちづくり協議会
事業費：77,000 円（基金活用額：77,000 円）
問い合わせ：39-0713

課題・取組みの概要

- 新元号「令和」の由来は、万葉集の「梅花の歌」である。中郷地区の梅北という地名は、梅に由来すると伝えられており、令和元年度の節目の年に梅の植栽を行い、地名の由来を地域の方々に再認識していただくとともに、子供たちにも周知を図り、郷土愛を育む一助とする。
- 植栽箇所を梅北小学校、安久小学校及び神柱宮があった黒尾神社で実施した。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 由来を記した記念碑を次年度に設置計画である。
- 小学生は、梅の実の収穫、そして加工し食することで食育にも貢献した。

今後の課題・アドバイス等

- 植栽後、害虫駆除と剪定作業が生じるため、費用負担が発生する。
- 植栽後の維持管理について、確認書を4者で取り交わす（市・まち協・PTA・学校）。

総合案内板整備事業



取組地区：中郷地区

取組年度：令和元年度

事業主体：中郷地区まちづくり協議会

事業費：1,025,200 円（基金活用額：1,025,000 円）

問合わせ：39-0713

課題・取組みの概要

- まちを散策する上で、手掛かりになる案内板が不足している。
- 中郷地区の名所・旧跡を記した案内板を 4 箇所設置した。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 地域の子供たちが見て訪れたりすることで、地域に誇りを持ち郷土愛を育む一因となる。
- 多くの市民の目に触れるよう設置箇所を厳選し、散策マップとして活用できる。

今後の課題・アドバイス等

- 人の溜り場に設置することが、より高い効果が得られる。
- 設置箇所により市への占用許可申請を要する。

記念碑設置事業



取組地区：中郷地区
取組年度：令和2年度
事業主体：中郷地区まちづくり協議会
事業費：357,500円（基金活用額：357,000円）
問い合わせ：39-0713

課題・取組みの概要

- 令和元年度に、中郷地区の梅北という地名に由来する梅の木の植栽を行った。
- 令和2年度は、由来を記した記念碑を梅北小学校へ設置し、後世に継承するものである。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 梅の木を植栽し、地名のいわれを記した記念碑の製作・設置をすることで、子供たちへの郷土愛を育むより強いメッセージとなる。

今後の課題・アドバイス等

- 記念碑が隠れないよう周辺木々の剪定を定期的に行う。

史跡ネットワーク化事業



取組地区：山之口地区

取組年度：令和元年度

事業主体：山之口地区まちづくり協議会

事業費：242,000 円（基金活用額：242,000 円）

問合わせ： 57-3114

課題・取組みの概要

- 校外学習や生涯学習ならびに観光案内に寄与する。
- 住民の史跡等に関する認知度が低い。
- 山之口地区まちづくり協議会ホームページで紹介している史跡と現地史跡とリンクし案内を行う。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 山之口地区まちづくり協議会ホームページで紹介している史跡と現地史跡とリンクさせ案内するため、設置してある史跡案看板等に取り付ける IC タグの製作を行い、スマートフォンで検索閲覧ができるように行った。

今後の課題・アドバイス等

- 史跡等の適切な管理が継続的に必要である。

「石川理紀之助」交流事業



取組地区：山田地区

取組年度：平成30年度・令和元年度

事業主体：山田地域づくり推進協議会

事業費：1,406,000円（基金活用額：1,300,000円）

問合わせ：64-2105

課題・取組みの概要

- 石川理紀之助は明治期に秋田から谷頭村（現在の都城市山田町谷頭）に赴き、農業や生活の指導をした山田町の恩人である。
- この「石川理紀之助の考え方」を教育に生かすため、山田中学校の生徒や地域の関係者が、石川理紀之助の地元である秋田県潟上市の中学校区の生徒や地域の人たちと、隔年ごとに訪問し交流を行った。

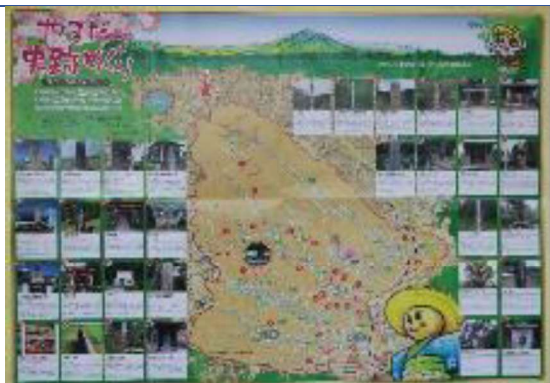
成果・事業の特徴・工夫したこと

- 交流を通して、自分の住んでいる地域への関心を高め、郷土愛や地域での自分の役割を考えるきっかけとなった。
- 生徒が参加するため、実施時期が夏休み等の期間に限定されることや交流内容等、訪問先との細やかな調整が必要であった。
- 県外との訪問による交流のため、新型コロナウイルス感染予防のため事業を中止せざるを得ない状況があった。

今後の課題・アドバイス等

- 平成26年に事業を開始しているが、今後の事業継続に当たっては、一部自主財源の確保も視野に入れながら、実施方法等の検討を行う時期に来ている。

ふるさと探訪マップ発行事業



取組地区：山田地区

取組年度：令和2年度

事業主体：山田地区まちづくり協議会

事業費：422,000円（基金活用額：420,000円）

問い合わせ：64-1121

課題・取組みの概要

- 山田地区には、都城島津氏発祥の地である「薩摩迫館跡」や桜島の大噴火による「しまうつりの碑」など祖先から伝承された文化財や史跡が多く残されている。
- 近年、これらの文化財等を学ぶ機会や思いも薄れ、保存も危惧されている。
- これらの文化財等を一つにまとめた冊子「ふるさと探訪マップ」を作成し、地域の文化財等の再認識を図った。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 地区内の文化財等を探訪できるよう、地図形式で作成した。
- 新聞等で市内外に広く周知した結果、県内各地から多くの問い合わせがあり、これをきっかけに山田地区に訪れていただいた。

今後の課題・アドバイス等

- まちづくり協議会の中に実行委員会を組織し制作に当たったが、現地調査や資料収集等綿密な作業が必要であった。

「たかざきマップ」リニューアル事業



取組地区：高崎地区
 取組年度：令和2年度
 事業主体：高崎地区まちづくり協議会
 事業費：476,058 円（基金活用額：476,058 円）
 問合わせ：62-1111（内線 211）

課題・取組みの概要

- 平成29年3月、高崎地区まちづくり協議会を中心とした各種地域団体が主体となって開催する高崎地区の各種イベント及び地域内の施設や史跡・文化財等を掲載した「たかざきマップ」を発行した
- 発行から3年が経過し、リニューアルの必要が生じた。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- 地域の文化資源等をスマートフォンなどで検索閲覧ができるよう、QRコードを「たかざきマップ」に掲載。高崎地区まちづくり協議会ホームページとリンクさせることにより、ホームページの閲覧を促す工夫をした。
- 規格（A3 三つ折り カラー刷）

今後の課題・アドバイス等

- 記載内容の定期的な検証、更新が必要である。
- 費用対効果を高めるため、配布先や配布方法を十分に検討する必要がある。（町内各戸配布、市内外各施設等）

たかざき施設案内パネル設置事業



取組地区：高崎地区

取組年度：令和2年度

事業主体：高崎地区まちづくり協議会

事業費：549,472 円（基金活用額：549,472 円）

問い合わせ：62-1111（内線 211）

課題・取組みの概要

- 地域内の各種施設（他施設や史跡、文化財など）を紹介する手段が少なかった。
- 施設案内パネルを、地域密着型施設である多目的研修集会施設等（6 施設）及び市民広場（5 施設）に常時設置することにより、子どもから大人まで幅広い年代に広く周知を図り、地域への愛着を深める。

成果・事業の特徴・工夫したこと

- リーフレット「たかざきマップ」掲載の案内図と同じ内容とすることにより、マップに注目する機会をつくった。また、QR コードを掲載することで、まちづくり協議会ホームページへのアクセスを促すことも工夫した。

今後の課題・アドバイス等

- 内容更新が生じた際は、リーフレット「たかざきマップ」との整合性を図る必要がある。
- 各掲示場所は定期的に巡回し、破損等が生じた場合は、修繕の必要がある。
- 耐用年数（約 4 年）経過後の更新が必要となる。